

# 感謝、お掃除、ご恩報じ に励みます



年頭会議 1月2日

# ひきよせ

天理教夕張大教会  
北海道岩見沢市9条西6丁目  
〒068-0029 ☎0126-22-1248  
FAX 0126-23-7275  
HP bariten.main.jp  
yubaridai146@gmail.com

## 貴方への手紙 (300)

人は昨日より今日、自分が成長できたと感じるとき充実感を味わうようです。

その感覚は若いときほど鮮烈です。経験することが初めてのことばかりで、たとえ刺激が強すぎて疲労したとしても充実感が味わえます。

今年、私は古希となります。今の自分はどうだろう？毎日目の前に起きる大抵のことはそれほど苦勞なく解決できる。経験に裏打ちされていると言えれば格好良いが、新鮮さが失われているのかもしれない。

ほとんどのことが今まで経験してきたことに似ていて、思い出しながら対処しているのです。若い頃は前例主義を避けたいと思っていました。しかし前例にとらわれずに進むうとしていても前例が気になってなかなか新しくな

りません。だんだんその傾向が強くなります。

それで良いとは思いません。ではどうしたら良いのか？

考えるうちに気づきました。そんな自分にもできることはある！ということ。若いときにできること。年をとってこそできること。できることはあるのだと。そう思うと急に新鮮な気持ちがよみがえります。

人間は生きている寿命のかぎり何かの役目がある。

「今できることがある！」という提案は自分への言葉でした。

今年三月末に父の三十年祭、母の二十年祭を執り行うことになりました。もうそんなに歳月が過ぎってしまったのかと思います。あれから遠くに来たもんだ、という歌詞が浮かびます。自分も父母のその頃の年齢に近づいていることを感じます。

去年からあちこちで話している

のでご存知のように再来年の秋に会長を替わらせてもらいたいと思っています。

再来年は私が父の辞職した年齢になります。そして息子が私の受け継いだ年齢になります。父と私の年齢差が34歳。私と息子の年齢差が34歳。ちょうど同じ年齢差。そのことを真柱様に申し上げてご了承を頂きました。

あるとき前真柱様が仰いました。「バトンを渡す人も、もらう人も共に走りながら」と。

私は走るには若くない年齢ですが、それでも信仰のおかげでたすけられていること、お道の素晴らしさを伝えたいと願っています。

元気なうちにバトンを渡せるのはありがたい。その後も道のようにぼくとしてのご用は生涯のこと。勇んでつとめたいと思います。

お互い教祖の思いを大切に、一人でも多くの人にたすかって頂けるよう、生きている感謝と心のお掃除、恩返しの種類をききまして陽気ぐらしへの道を歩みたいものです。

(二月八日記)

## 今後の予定

- 3月 31日 学生春のおぢばがえり
- 3月 31日 四代会長御夫妻・年祭
- 4月 30日 喜多先生ご来会 祭主に  
少年会夕張団総会

★夕張大教会  
ホームページ  
bariten.main.jp



### 一月春季大祭の様

年明けから雪が降り、例年通りの雪化粧となった大教会。大祭前日には青年会員を中心に、雪の中教会旗の設置や献灯提灯の取り付けひのきしんに和氣藹々と取り組んだ。

明けて大祭当日は朝こそ寒さが厳しかったものの、日中は少し温度も上がって、神殿の大屋根の雪も少しずつ落ちていた。

開扉献饌のち座りづとめ・十二下りののをどりが勇んで勤められた。今年最初の祭典という事もあり、各人緊張感のあるおてふり、鳴物であった。

大教会長は講話で「皆様、今日は立教182年の春の大祭、ご参拝頂きまして誠にありがとうございます。

元旦の『旦』という字は、太陽が昇る事を表した字です。また旦の字を分けると『一日』となり、元旦で元一日になるというのです。やはり元旦というのは、心を切り替えて「さあやるぞ」という時なんです。前年の感謝・お礼の気持ちを持って、改めて「おめでと

う」と言い合う事は大切だと思います。毎年、ひきよせの新年号には挨拶

とともにも、一文載せています。今年は特に私の心境を書きました。今年の活動方針は、去年と同じく「今できることがある！」です。なんでもいいですから、出来ることからさせてもらいましょう。

春季大祭の意義は、ご存知の通り明治20年1月26日、教祖が現身を隠された、その時の心、教祖は扉開いて世界中を助けまわる。その事を聞いて、一回奮い立った。



教祖がお働き下さる、それでは私達も頑張ろう、と動いた結果、信者が爆発的に増えたのです。明治20年から30年の間に、約百倍になったそうです。現代の我々に出ることは何か。教祖に教えて頂いた事、何か一つでも小さなことでも、出来ることをさせてもらったらいいんです。出来ることは様々ありますが、信仰の上で何かないかと思うのです。

ある本に『明治維新に尽くした五人』というのが書かれていて、その中に教祖が入っているんです。武士を中心とした封建社会であっ

た江戸時代から、どんな立場の人でも平等で、それぞれに価値がある、という考え方を弘めた、と評価されているようです。『一れつきようだい』雌松雄松の隔てなし』という言葉からも分かるように、教祖の教えとともに一人ひとりの価値という、ある意味近代的な考え方が日本中に広がっていったんです。当時、男女平等といった考え方は世界のどこにもなかった。いかに教祖の教えが先進的だったかが分かりますね。

今晩、市内である集会がありまして、何故か私が君が代を独唱する事になりました。これを機に君が代について少し調べてみました。が、奈良時代からある古い和歌で、明治に入ってから音楽にて節が着けられ、それを西洋音楽の旋律に整えて、今に至るようです。意味としては「岐・美(男・女、人々)」が暮らす「代(世)」がいついつまでも続いて欲しい、という歌で、昔から祝いの歌として伝わってきたものです。新年の祝いの席にふさわしい曲ではありますが、大勢を前に独唱というのは緊張しますね。

全日本大学ラグビーの準決勝が二日にあり、天理大学が9連覇中の帝京大学を破る快挙を成し遂げ

ました。先制トライを決めたのは久保選手。実は大教会に昔住み込んでいた久保さん夫妻のお孫さんなんです。久保さん夫妻は、まだ分教会の頃に家族で夕張に伏せ込み、後に兵神詰所の御用を仰せつかった、長らく詰所で勤務されていました。子ども達も立派に成長し、そこへ来てお孫さんの活躍。長年伏せ込んだ理が子や孫の結構な姿に映り、私はとても嬉しく思いました。

活動方針に書いてある標語は、神殿の各所に張り出してあります。参拝に来られた際はそれを見て、何か毎日の生活のヒントにして頂けたら結構かと思えます」と話された。

大祭に前後し、各会で新年最初の例会が行われ、それぞれが新たな気持ちでこの年の活動に取り組む事を誓い合った。

### 十二月次祭の様・続き

講話には平成29年9月にお許しを戴いた本三川・眞鍋桂司氏と30年9月の志加ノ谷・岩佐善昭氏が立った。本三川会長は「眞鍋でも美雪前会長とはいとこより遠い縁

続きで」と、徳島県での高祖父の生活などから、自らのいんねんについてお話しされた。北海道に

入植する前の明治20年代に既におさづけを戴いて渡道したと。教祖のお話にあるよう、私もいんねんがあるから、神様に引き寄せられて、御用の一端を担っているものだと思う、将来を楽しみ、日々勇んで通りたいと話した。



次いで志加ノ谷・岩佐氏は、「私がかうして皆様の前に立つようになったのには、本当に多くの先人の、親々の思いや願い、種時ぎがあつて今があると思っています。

そこで、そのお心寄せ頂いた人達に伝えるために、今の若い人達を育成していくのは、部内とか教会にとらわれず、すべて私の仕事なんだと思つて取り組んでいきたいと思つています。育てば育つ、というお言葉のように、一生懸命やっつけていきたい」と話した。



# 3月31日 前会長ご夫妻、年祭を前にして

「交剣知愛」

藤田増平を偲ぶ」より

レモンの皮

高橋美津志

昭和54年5月のある日の夜、私は付属建物の増改築のお願いに、会長室に上がらせて頂いた。

会長さんは忙しい時間をさいて、快く詳細に互つて親心こもるご指示を下された。その思召の有難さに礼を申し上げて退座しようとする私に、

「誰もいないが、到来物の『越乃寒梅』の銘酒があるから、一杯どうだ」  
と温かいお声をかけて下さった。

よく人は 酒飲みは口がイヤしい

「と言いが、ましてや幻の銘酒

『越乃寒梅』となれば尚更のこと

素直に私は会長さんのお声に甘えて座っていると、すかさず二つの

コップを食卓に置き、一升瓶の

『越乃寒梅』の銘酒をコップにな

みなみとついで、

「酒の肴がないなあ……」

と慌てて会長さんは台所の隅の冷蔵庫を開けられたが、酒の魚にするものが無かったのか、

「何もない」

とつぶやきながら、絞った後、捨てずに残してあった2個のレモンの皮を、慣れた手つきで小さく刻み、小皿に盛り、食塩をふりかけて、

「これしかないんだ」

と苦笑しながら、さりげなく食卓に出された。

その瞬間、私の心の底からにわか熱いものが込み上げて来た。贅沢しようとすれば出来る会長さんの立場でありながら、誰もが捨てるレモンの皮でさえ粗末しない慎みの心使いの生活姿勢を、

目前にして、私は言いようのない

深い感動を受けたからである。

それ以来、今も尚、食卓で箸を

手にする毎に、あの折の状況が昨日のこのように、ありありと脳裏に蘇り、

「けして贅沢をするな、つつしめ」

と、前会長さんが私に語りかけて下さっているように思えて、あの夜の無言の教えに、感謝は尽きない。

ありがとうございました。

## 「住み込んだ幼き日に」

旭都分・藤崎 利男

(富良野市在住)

私は、夕張が二度目の火事で教職舎が全焼し、部内一丸となって

「さあ、やるぞ！」との意気が溢れる頃、昭和38、41年、4、6歳

の頃に、父母と兄と一緒に住み込ませて頂きました。増平・三十乃

ご夫妻は忙しいので、前会長好

助・カメノご夫妻にお世話になっ

た方が多かったのかもしれない。

私の心の中の増平・三十乃ご夫

妻お二人は、一度も怒られたこと

がないこと。教職舎普請の折、会長宅に繋がる廊下に大きな白壁があつて、私はいたずら心からでは全くなく、クレヨンで大きな汽車の絵を描いた。当然、大目玉なの

だろうけど、怒られた記憶がない。素直な子ども心を逆に褒められたかもしれない(新しい玄関のコンクリート塗りに足跡を作った兄によると、私は絵の端に『とお』と覚えてたの名前を書いていたので、誰がやったか一目瞭然なのに)。

会長さんはとにかく子どもを喜ばせたい気持ちに篤い人でした。広い額にいっぱい汗をかいて、少年会の練成会で、三十乃奥さんと一緒に、歌にゲームに楽しませてくれたあのにこやかな笑顔は、会長さんそのものだったと思います。増平会長さんも三十乃奥さんも、あるがままをたくさん喜び、勇んだ方だったと思います。殊に、気取らず、ちびた下駄をカラカラ鳴らして、汗をふきふき、天理本通りを歩き、青年さんたちに「ご苦労さん」と気さくに声をかけられ、人気者でしたね。

ご夫妻には大変お世話になりました。今少しでもご恩返ししたいと思つて歩んでいます。

## 「いんぎ話を集めて」(10) 4トントラックと衝突して

「会長さん、今度も不思議なおたすけを頂いて、けがもなく通れました」と、長い拜の後に顔を上げた大柄なWさんが言った。W氏は神奈川県にある教会の所属だが、仕事の関係から旭川に住むようになり、10年以上前から、近くにある私共の教会に参拝して下さるようになった方である。酪農家を訪ねるお仕事なので、旭川から北に向かい稚内方面まで往復300キロも車を飛ばす。内陸を行くより日本海側のオロロンラインを北上する方が時間を短縮出来ると言っていた5年程前に、長距離運転で疲れが出て、ついウトウトと居眠り運転をして、対向車線に出て、正面衝突。と思いきや、しかし、わずかに踏んだブレーキの為、車が回転、最悪の結果とはならず、自分は軽症、相手の方も通院ぐらいで助かった。という事があつた。それまで、自教会と離れ、お道に近づきたいと色々な教会を訪ねたらしい。そこで、胸の中の疑問に少

次ページへ

しか答えられた私共の教会に来るようになり、その事故で、本当に神様に触れたようだった。

十勝型事故という言葉がある。直線道路がどこまでも伸びる十勝では交差点に近づいても、同様の速度で左、右、から近づいてくる車が、目の錯覚から、止まって見えるのだそうで、一時停止せずに衝突する事が多いそうだ。

11月のその日は天候も良く、十勝晴れというような日。Wさんは会社の車で得意先を回っている途中、右手にある目的の建物に交差点から真つすぐに向かうと、ものすごい力でドスンと衝突された。Wさんの不注意からで、4トントラックの進路に飛び出た形で、車の横つ腹にぶつかられていた。

気が動転していたが、身体はどれも痛くない。トラックの運転手も警察と救急車の方も心配してくるが、病院にも行かずに済んだ。左側がペシャンコになった車は廃車の様子。しかし、大型の普通車がつぶれて衝突をやらせてくれたので、助かったのであった。普段乗っている軽ワゴン車だったら……わからない。

旭都分教会・藤崎 実

「こぶき話を集めて」(11)

感激のおちばがえり

昨年8月、大阪に暮らす姪のYさんは、仕事で札幌に戻り、両親のお墓参りを済ませた後、妹と二人で教会に参拝に見えました。話をするうちにYさんの口から、6月末頃より原因不明の熱が続く、病院を受診すると、即入院となり、入院後は検査ばかりの日が続く、二週間程経ちましたが、原因は解からないまま、医者に頼み込んで無理に退院したとの事でした。そうしたYさんの話を受け、おちば帰りをしよう！と私の勧めで、

秋季大祭に参拝する事を約束し、大阪へ戻りました。丁度九月のにをいけりフレットに、身体は神様からお借りしている。大いなる恵みによって生かされている。いつも喜びの心を持ち、誠実に前向きに生きてゆく。こうした日々の積み重ねが幸せの扉を開くのです。と書かれており、手渡したリーフレットを真剣に何度も読み返しているうちに、忘れかけていた教えが彼女の心に響いた様でした。10月26日、参拝後別席を運ばせて頂きました。その後、教祖殿でおさづけを取り次いで頂き、感激のおちば帰りであります。

年が明け、最近になって電話がありました。「報告が遅くなりまして、病気が良くなった」と。

10月のおちば帰りの後、11月に病院へ行くと、悪かった肝臓の数値が正常になっていると、一週間後更に詳しく調べるとすっかり良くなっている、薬も通院も必要無しと言われた、と言う事でありました。そしてあの時、教祖の前でおさづけをしてもらった事できっと良くなった、鮮やかな御守護に驚きました、と。彼女の言葉でした。一時の喜びに終わらぬ様、今後もおちば帰りを、別席を運んで彼女自身もおさづけを取り次がせて頂

ブラボー少年会員さん  
バスケット大会で

由仁分教会の大橋寧々さん(中1)の所属する由仁中学校バスケット部は「北海道中学校バスケットボール新人大会」にて南空知地区予選を勝ち抜き、12月22〜24日に帯広市で行われた全道大会に出場。

由仁中学校は、見事ブロック1位通過で決勝トーナメントに進出した。(同中学で歴代初だそうです)トーナメントでは帯広緑園中に59対42で惜しくも負



左から2番目大橋寧々さん

けました、部員6名のみという最小人数の中での成績とは、ブラボーです。

ける人となれる様、共々に誓い合ったのでした。

- 長沼分教会・千葉宏司
- ▽話所ひのきしん
- 山根ふじの(善進道) 12・24〜29
- 西山菜穂子(善進道) 12・25〜29
- 西山 育夫(善進道) 12・29
- ▽本部御鏡開きひのきしん 1・4
- 渡部 修太(清真布)
- ▽本部お節会ひのきしん 1・5〜7
- 佐藤 靖子(上富良野)
- 各務 美樹(北八洲)
- ▽をびや2件

庶務部

- ▽話所教養掛
- 2月 藤田好道(幌都)
- 3月 松下勝彦(神富)
- ▽育成基金寄付
- 志加ノ谷分教会

大教会日誌抄 1月

- 1日 元旦祭
- 2日 年頭会議
- 3日 会長夫妻、上富良野分巡教
- 4日 会長、おちばへ年頭ご挨拶
- 6日 会長、帰会
- 7日 会長夫妻、旭都分巡教
- 8日 会長夫妻、峰延分巡教
- 10日 会長夫妻、祝梅分巡教
- 12日 会長夫妻、馬追分巡教
- 13日 会長夫妻、幌向分巡教
- 14日 総務部会、月例会議
- 15日 婦人会例会、青年会例会
- 17日 春季大祭、少年会例会
- 18日 会長夫妻、夕喜元分巡教
- 22日 会長、おちばへ上和
- 23日 会長、兵神大教会大祭参拝
- 24日 会長、本部神殿当番
- 26日 会長夫人、おちばへ上和
- 27日 本部長、おちばへ上和
- 29日 会長、かなめ会
- 31日 会長夫人、帰会